

令和4年度 社会福祉法人三社会事業報告

1 事業報告にあたって

令和元年度末から続いた新型コロナウイルス感染症による法人活動への影響は、令和4年度終盤には落ち着きを見せ保育活動は通常に近い形に戻りました。

ただコロナ禍の間に待機児問題はターニングポイントを迎え、令和4年度から北区の浮間東保育園と板橋区の平和保育園では定員未充足が顕著になりました。特に平和保育園は今後も大きな影響を受けることになりそうです。コロナ禍の下、利用の減った一時保育・延長保育、サービス推進費対応の子育て支援事業ですが、以前のような利用にはまだ戻っていません。

今後は定員未充足に各事業の利用減による収入の減少が加わることとなり、各園とも出費の見直しが求められます。

4月からスタートした公益事業・訪問看護ステーションですが、板橋区拠点のはいさいが地域の訪問看護ネットワークに入れず、かなり苦戦していましたが、現在は北区中心に活動を広めています。日野市拠点のコンシェルジュは順調にニーズに応じており人員体制も拡大しています。

本部はコロナ禍の下でも地域の施設利用が進み、さらに災害時の活動拠点としても認識されてきました。また、支え合い会議、板橋区社会福祉法人施設等連絡会等のネットワークを通して地域の福祉ニーズを汲み取り、ネットワークの中で公益的な取組を行うことが出来ました。

2 事業経営

【保育所運営】

児童受託状況

・練馬区及び調布市は、まだ少子化やリモートワークの影響を受けていませんが、北区、板橋区は定員未充足が顕著になりました。

職員体制

・令和3年度ほど人材確保に困難さはありませんでしたが、浮間東保育園、王子北保育園、光が丘わかば保育園等では年度当初に必要な職員数を確保出来ず、さらに年度途中の退職者で人員配置に苦勞をしました。

新型コロナ対応

・全施設コロナ感染症対策に万全を期しながら出来るだけ通常に近い保育を実施しました。

第三者評価

・王子北保育園が受審。

職場改善

・パワーハラスメント対策として、三菱UFJリサーチ&コンサルティングの笠原氏が全園で研修を行いました。

評価制度の定着

・今年度も職員が自身の将来像を描けるような評価制度の定着を図りました。

【公益事業】

4月から板橋区でスタートした訪問看護ステーションは板橋区の中の堅固な枠組みの中に入れず、また、医療・介護の仕組みに不慣れなスタッフにより苦戦しましたが、北区内では信頼を得て順調に業績を上げています。

9月からスタートした日野地区は田中洋理事の元勤務地でもあり、順調に業績を伸ばしています。
両拠点ともに新年度からは単月黒字に移行できる。

3 理事会

4回開催

5月 令和4年度事業報告、決算報告、役員賠償責任保険、資産運用、評議員会の開催

9月 公益事業の展開、補正予算、仙川保育園の給食業務委託、評議員候補者の推薦、
評議員選任解任委員会の開催、資産運用、IDECOの導入

12月 補正予算、評議員会の開催

3月 補正予算、令和5年度事業計画、予算

4 評議員会

2回開催

6月 令和4年度決算報告

12月 事業報告

5 評議員選任・解任委員会

9月 評議員の選任

6 園長会

毎月1回開催、

6 主任会議

2ヶ月に1回開催

7 会計チェック

9月末、12月末、2月末に伊東税理士事務所で行う。